

佐々木ゆりか

鶴谷さとみ

◆商工業振興について

- Q 市民の日常の買い物に影響する店舗の閉店理由を知ることは買い物不便対策や、新規出店の相談に役立つ。情報収集をしてはどうか。
- A 事業者の経営判断に関する情報であり、強制力はないが、可能な範囲で閉店理由などについて聞き取りたい。

◆教育への新聞の活用について

- Q 情報を取捨選択し、読み解く情報活用力をつけるには、新聞を活用するのが効果的と考える。教育に新聞を(NIE)の取り組みについては。
- A 新聞活用により情報を収集、整理し選択する力、文章にまとめる力、発信する力の育成につながる教育方法として取り組んでいきたい。

◆食に関する取り組みについて

- Q 防災食育センターの活用を含めた食育に関する取り組みについてどのように検討しているか。
- A 小学生の社会見学、町内会、PTA等を対象とする「大人の食育講座」、新入学児童の保護者を対象に「食育・給食説明会」などの新たな事業を想定している。

◆市民参加について

- Q 啓発活動の推進として、街角で意見を提出する対話型パブリックコメントに取り組んではどうか。
- A 他自治体の事例などを研究し、市民が意見を出しやすい環境整備の検討とともに、市政に参加できる機会の創出を図る。

佐々木ゆりか

鶴谷さとみ

◆上下水道について

- Q 他市の水道水からマイクロプラスチック検出の学会発表がある。上水の実態調査を行ってはどうか。
- A WHOは「現状では人体に被害を及ぼすことはないが、将来的な潜在リスクについて研究が必要」としている。情報収集に努めたい。

◆地域から平和をつくる取り組みについて

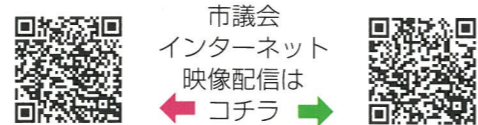
- Q 平和の灯公園の改修を期に記念行事など、改めて平和の灯を発信する取り組みを行っては。
- A ボールパークの開業で平和の灯公園周辺の人流が変わるため、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝え次の世代に引き継ぐ目的で活動している「平和の灯を守る市民の会」とともに、検討していきたい。

◆子どもの権利について

- Q 学校現場における普及等の取り組みは。
- A 人権擁護委員などの外部講師を活用し、教科横断的な指導に取り組んでいる。教職員を対象に市担当職員を講師に、子どもの権利条例の理解を深める研修会を開催している。

◆子育て施策について

- Q リフレッシュや孤立防止の観点から一時預かり保育の利用日数を見直すべき。
- A 民間事業者の意向を伺いながら検討する。



- ◆防災食育センター給排水衛生設備工事の請負契約について
- ◆補正予算：マイナポイント利用支援事業に3,005万円を可決

佐々木ゆりか

鶴谷さとみ

- ◆身近な農業を応援する取り組みについて
- ◆雪対策基本計画について
- ◆緑の景観について
- ◆マイナンバーやマイナンバーカードの取り扱いについて

- ◆子どもの新型コロナウイルス感染症対策に関する対応について
- ◆新型コロナウイルス感染後の後遺症について
- ◆コロナ禍の介護事業の状況について
- ◆高齢者等地域見守り事業について

市民ネットワーク会派視察

11/10・11

コミュニティナース/更別村

更別村は人口3,168人(2022年10月現在)大規模農業が盛んなまちです。国のデジタル田園都市国家構想推進交付金の採択を受けた『更別スーパーレレッジ構想』により、20代の若者3名が「コミュニティナース」として着任、地域に入って活動を始めました。人とつながり、まちを元気にする取り組みに期待したいです。



WEWとかち/帯広市

不登校を語る親の会「時塾」の開催や学習支援等について、活動拠点でお話を伺いました。十勝管内関係機関や多世代のつながりを活かし、一人ひとりに寄り添い信頼関係の構築を大切に活動されています。



▲WEWとかち代表若菜順さんと

遊育推進事業/安平町

日本ユニセフ協会が認定する「子どもにやさしいまちづくり(CFCI)」実践自治体です。安平の遊育では「機会・場所・遊びそのもの」の3つを提供し子どもたちに遊びを通じて育つ機会を作っています。



▲あびら教育プラン冊子・QRコード

防災DEおしゃべりカフェ

8/27

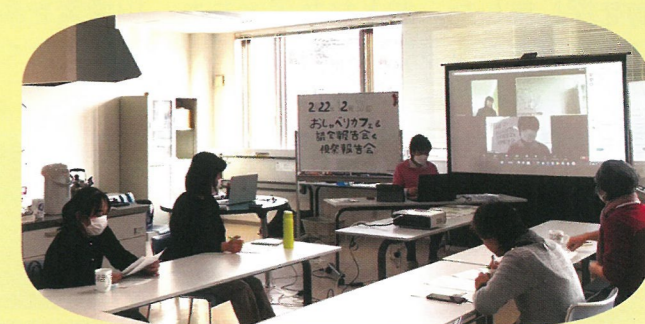
戸建て住宅やマンション住まいでの備え、学校連絡、高齢者の訪問&送迎、大雪対策など。もしもの備えについての疑問、意見、防災ノウハウを共有することができました。



議会報告会

7/10、12/17

新型コロナウイルス感染症対策、高齢者・子育て施策、ICT適正利用などの議会報告を行いました。参加者からは視察報告やボールパーク開業による市民生活への影響について質問や意見がありました。



寄稿 大切な自分に気づき未来を選ぶように

12/11学習会「家庭で伝える性(いのち)のお話」より

「あかちゃんはどうしてうまれてくるの?」という子どもの質問は、自分の存在を確認する質問です。学校では「性の知識」を教えてくださいますが、授業だけでは伝えきれません。「コワイ」「きもちわるい」と感じた時に「イヤだ!」と言い、受け止めてもらえる体験等とあわせて共有することで、犯罪の被害者にも加害者にならない、望まない妊娠や病気を防ぐなど、自分の未来を自分で選び行動することができます。また、おうちで子どもにはじめて聞かれた時がタイミングで、その時の気持ちや知っていることを共有し受け止めることが大切です。赤ちゃんや小さい子のお世話では「オムツ開けるね」「着替えようね」と声かけすることで、大切に想う気持ちが伝わります。性に関する子どものギモンは、自分の誕生や身体の成長を知りたいという気持ちから。恥ずかしい、隠したいなど、つい話題から避けてしまいがちですが、「大切だから守ろうね」と伝えてほしいです。



みまやきょうこ ▲御殿 京香さん 「思考の冒険」代表 18年の小学校教員を経て活動中